

唐津・口之津海上技術学校及び九州・山口水産系高等学校生に対する

# 船員職業意識調査アンケート結果

平成 27 年 1 月

公益財団法人 九州運輸振興センター  
九州海事産業次世代人材育成推進協議会

# 目 次

## 1. アンケート調査の概要

① 調査の目的	1
② 実施方法	1
③ 回答者の学校別・学年別内訳	1
④ 年齢別構成・男女別構成・出身県別構成	2
⑤ 家族に船員がいる生徒の割合	2
⑥ 家族に船員がいる生徒数の県別比較(全体)	3

## 2. 卒業後の進路について

① 卒業後の進路:学校別	3
② 卒業後の進路(出身県別)	4
③ 船員を志望する生徒の船種別希望状況	4

## 3. 見学会等イベントへの参加状況及び効果

① イベントへの参加状況	5
② 「ある」と答えた生徒の出身県	5
③ イベント参加時の学年分布状況	6
④ イベントへの参加形態	6
⑤ 参加イベントの内容	7
⑥-1 本校入学への影響	7
⑥-2 「大いに影響」と答えた生徒のイベント参加形態とイベントの内容	8

## 4. 本校入学時の意識について

①-1 入学の動機(学校別)	9
①-2 入学の動機(家族に船員がいる生徒、いない生徒の比較)	9
② 学校情報の入手先(学校別)	10
③-1 入学時点での船員への魅力・興味の有無(学校別)	10
③-2 魅力・興味の有無による進路比較(学校別)	10
④ 魅力・興味の内容	11
⑤ 魅力・興味をもった時期(学年別)	11
⑥ 魅力・興味を持ったきっかけ	12
⑦ 魅力・興味を感じない生徒の理由(学校別)	12

## 1. アンケート調査の概要

### ① 調査の目的

九州・山口地域における海事産業次世代人材育成の取組が、開始後6年を経過するなかにあつて、これまでの活動の成果について検証する必要があつたことと併せ、この間の海事産業界における人材不足の課題、特に内航船員の確保がより深刻化した課題となっていることから、実際に船員を養成する学校である「海上技術学校」や「水産系高校」に入学した生徒が、どのような考え方を持って入学し、その考え方がどのようにして形成されたのか等を把握し、今後の協議会の活動方針に反映していくことを目的として実施したものである。

### ② 調査方法

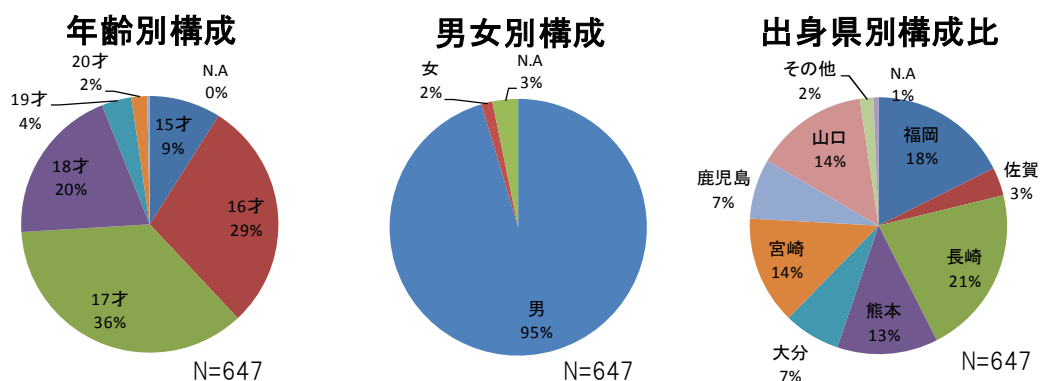
海上技術学校(唐津、口之津)2校、九州・山口内の水産系高等学校7校の担当教員に協力を依頼、平成26年9月1日～11月30日の間、各学校のホームルームの時間等を活用して実施。手法は各学校の判断に委ね、記載時間は概ね15分程度を目安とした。

### ③ 回答者の学校別・学年別内訳

学校名	1学年	2学年	3学年	専攻科1年	専攻科2年	合計
国立唐津海上技術学校	38	41	39	—	—	118
国立口之津海上技術学校	32	31	33	—	—	96
福岡県立水産高等学校	—	29	30	10	1	70
長崎県立鶴洋高等学校	—	31	29	—	—	60
熊本県立苓洋高等学校	9	16	16	—	—	41
大分県立津久見高等学校 海洋科学校	—	19	22	—	5	46
宮崎県立宮崎海洋高等学校	—	42	41	—	—	83
鹿児島県立鹿児島水産高等学校	—	10	23	—	9	42
山口県立大津緑洋高等学校	29	21	26	10	5	92
合計9校	108	240	259	20	20	647

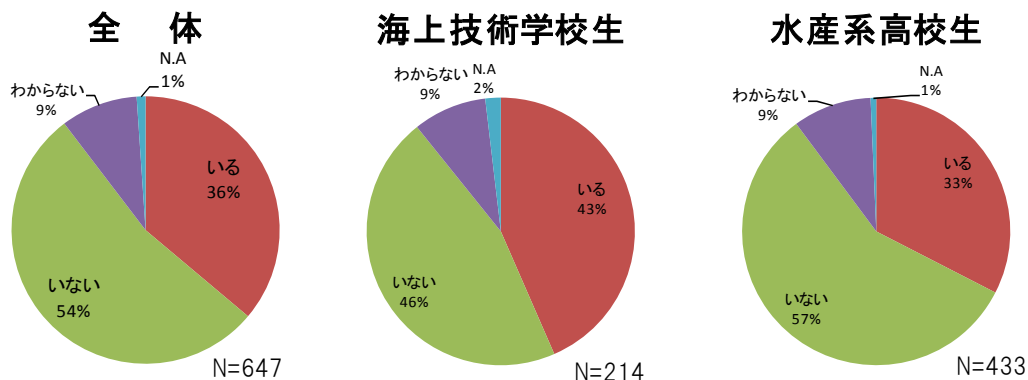
※ 647名(回収数)÷745名(在校生総数)=0.88 回収率88%

### ③ 年齢別構成・男女別構成・出身県別構成



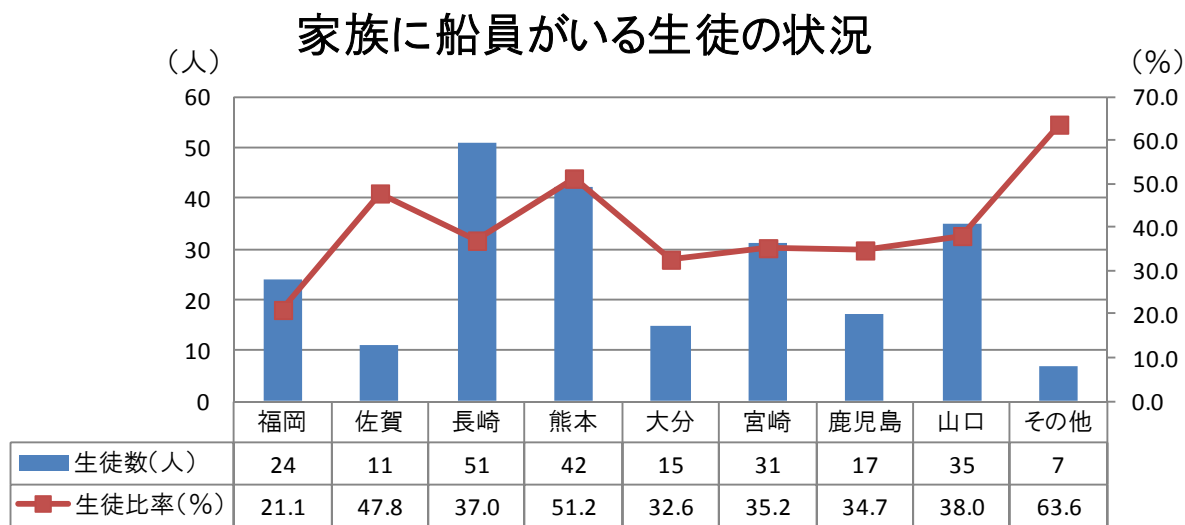
- 年齢別では、高校2～3年生が中心であるため、16才～18才で85%を占めている。
- 男女別では、95%が男子で、女子は実数で9人、2%となっている。
- 出身県別では、九州・山口圏内で97%を占め、圏外は実数で11人、2%となっている。

### ④ 家族に船員がいる生徒の割合



- 全体・学校別とも、「いる」と答えた生徒は半数未満。
- 学校別比較では、海上技術学校生の方が水産系高校生より「いる」生徒の割合が高い。
- 船員数/職業別2人以上世帯数(H22d国勢調査) 6.9万人/2,520万世帯=0.0027(0.27%) からすると、家族に船員のいる割合はかなり高い。

⑤ 家族に船員がいる生徒数の県別比較(全体)

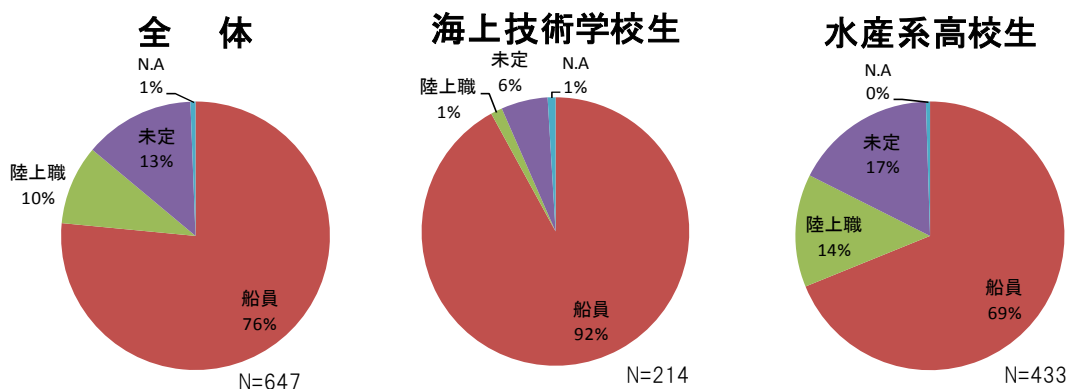


N=233 (N.A=4を除いた)

- 家族に船員がいると答えた生徒数は、長崎県が最も多く、続いて熊本県、山口県、宮崎県の順。
- 出身県別生徒数では、福岡県は、長崎県に次いで多いが、家族に船員がいる割合は最も低い。
- 家族に船員がいると答えた生徒が占める割合は、その他(九州・山口以外)の生徒が最も高く、熊本県、佐賀県の順。

## 2. 卒業後の進路について

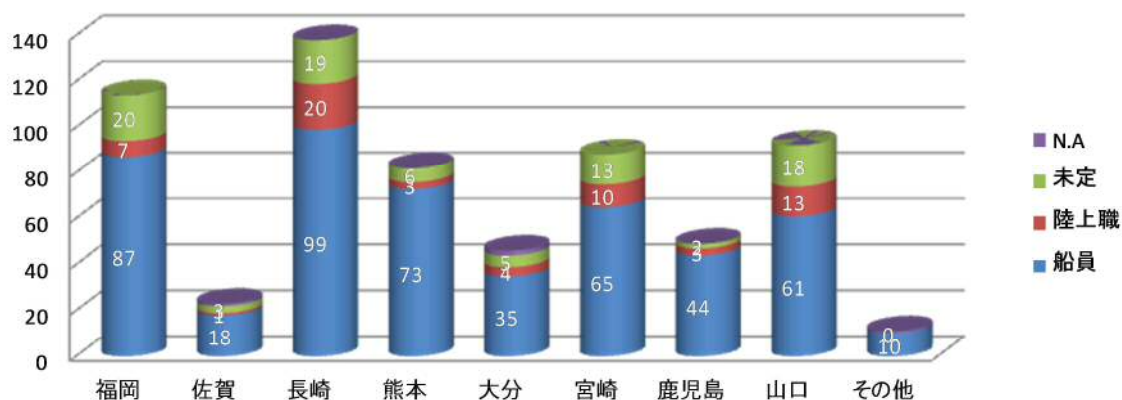
### ① 卒業後の進路:学校別



- 全体の76%が船員を志望しており、海上技術学校生の船員志望率が高い。
- 陸上職志望者は、水産系高校生が中心で、職種としては、造船所(12名)、進学(8名)、自衛隊(7名)、機械関係(5名)の順になっている。

② 卒業後の進路(出身県別)

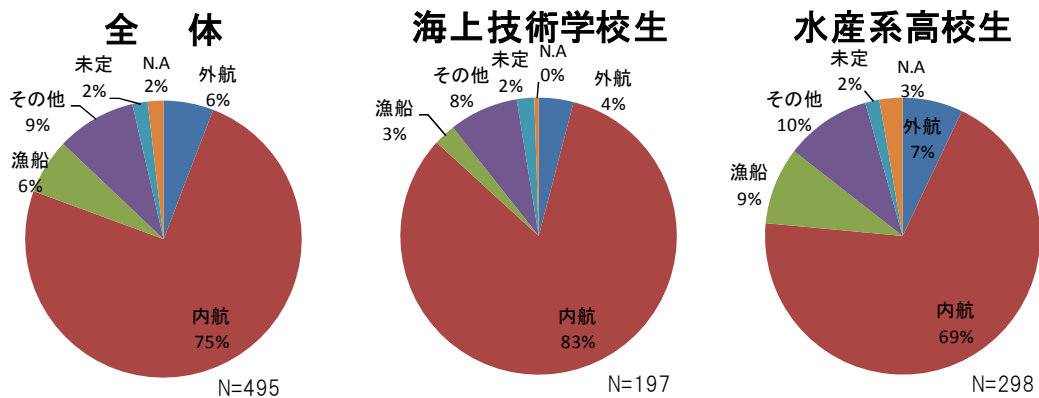
出身県別進路別人数



N=647

- 船員志望者数は、県別生徒数の多い長崎県が最も多く、福岡県、熊本県の順。
- 船員を志望する生徒の割合では、鹿児島県及び熊本県の出身者が特に高い。

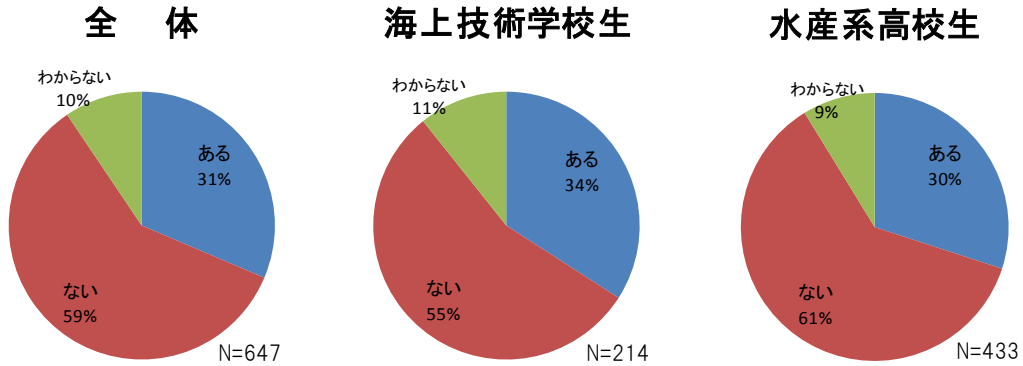
③ 船員を志望する生徒の船種別希望状況



- 就職志望先は、海上技術学校、水産系高校ともに内航海運が圧倒的に多く、全体の75%。
- 海上技術学校生の方が、内航志望者が多い。
- 水産系高校生の方が、漁船志望者が多い。

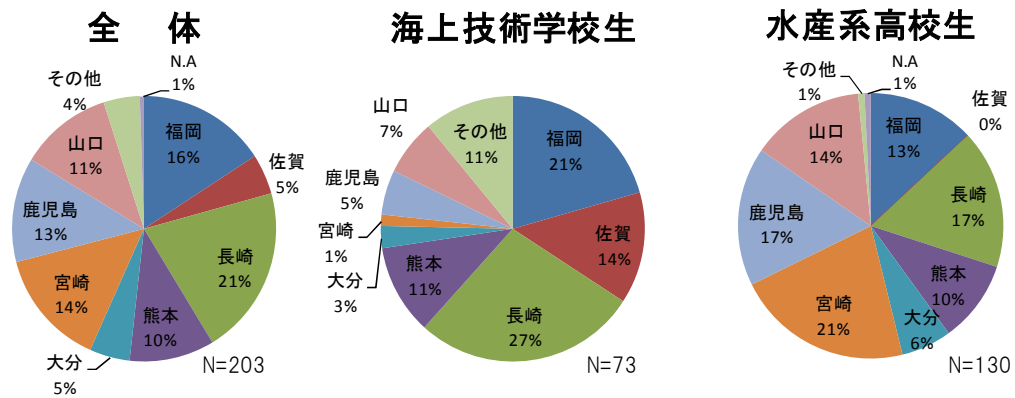
### 3. 見学会等イベントへの参加状況及び効果

#### ① イベントへの参加状況



➤ 海上技術学校と水産系高校で大きな差異はなく、「ある」と答えたのは全体の30%程度。

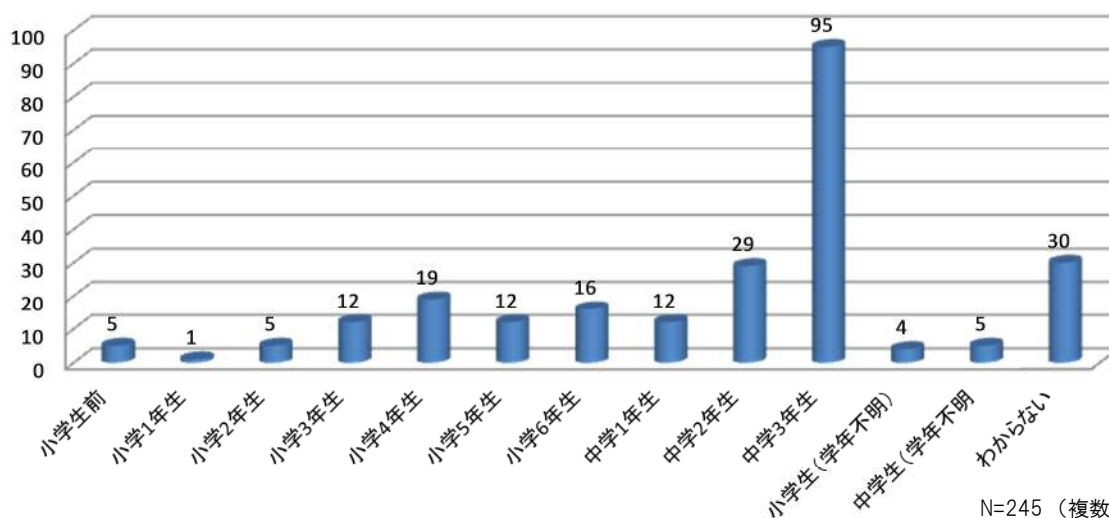
#### ② 「ある」と答えた生徒の出身県



- 全体では、長崎県、福岡県出身者が多く、宮崎県、鹿児島県、山口県、熊本県と続く。
- 海上技術学校と水産系高校で構成比が異なるのは、県別出身者構成が異なることが影響。
- 水産系高校では、宮崎県が多く、佐賀県、熊本県、大分県の出身者が少ない。

### ③ イベント参加時の学年分布状況

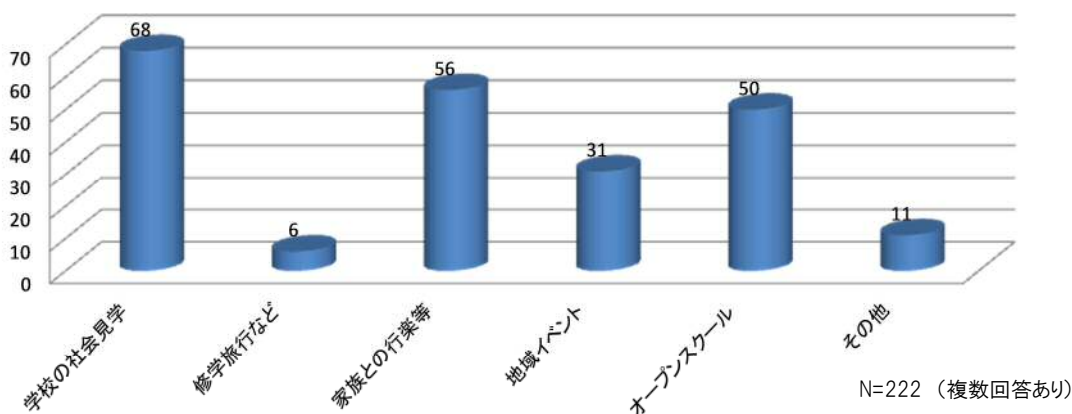
#### イベント参加時の学年分布



- イベントへの参加時期としては、中学3年生が最も多い。
- これは進路選択期を迎え、オープンスクールなどへの参加が増えることが原因と考えられる。
- 年代別では、小学校低学年→小学校高学年→中学校と増加する傾向にある。
- 学年の進級とともに、社会への関心や社会見学の機会が増えることなどが要因と考えられる。

### ④ イベントへの参加形態

#### イベントへの参加形態

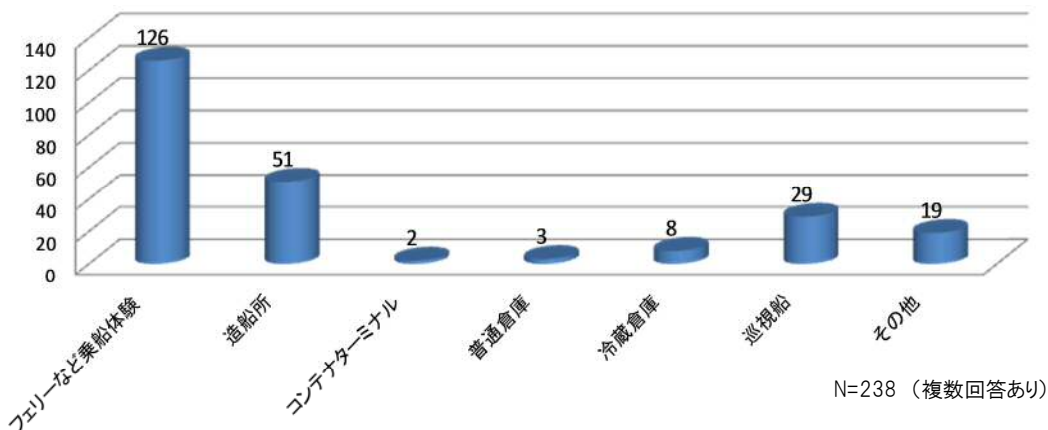


- イベントへの参加は、学校の社会見学が最も多く、家族との行楽、オープンスクールの参加と続く。
- 修学旅行などの旅先での参加は最も少ない。
- その他の内容としては、家業での体験4人、友人の家業での体験2人、ボーイスカウトでの体験、海上技術学校の文化祭などで各1件。



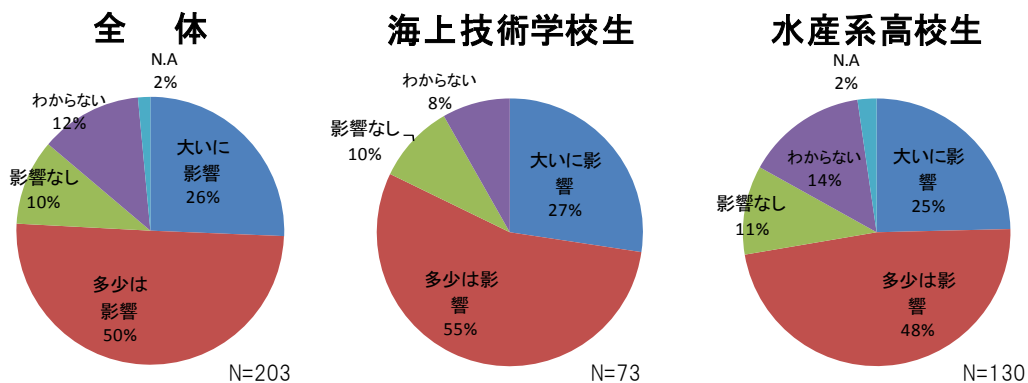
⑤ 参加イベントの内容

参加イベントの内容



- フェリーなどでの乗船体験を挙げる生徒が最も多く、この中にはオープンスクールでの実習船の乗船体験が含まれている。
- 次に造船所や巡視船の見学が多いが、コンテナターミナルや倉庫を挙げた生徒は極めて少ない。
- その他の内訳としては、漁業体験6人、自衛艦5人、練習船4人など全てが乗船体験など。

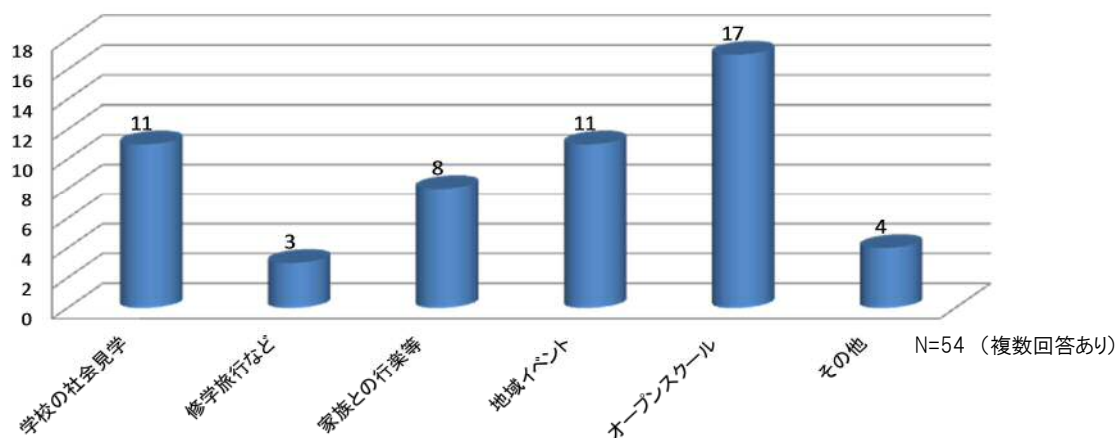
⑥-1 本校入学への影響



- 体験したイベントについて、全体で76%の生徒が本校入学に影響したと答えている。

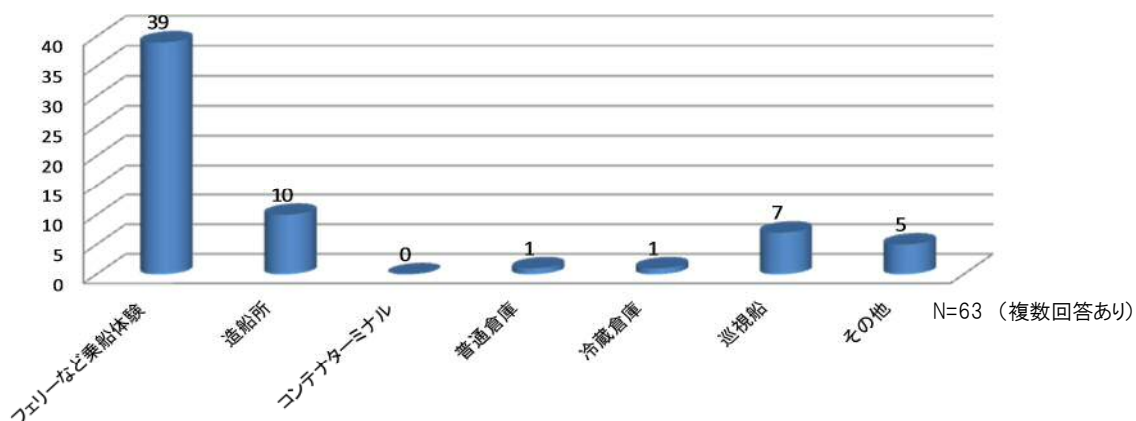
⑥-2 大いに影響と答えた生徒のイベント参加形態とイベントの内容

大いに影響と答えた生徒のイベント参加形態



- 「大いに影響」と答えた生徒(52名)のイベント参加形態では、オープンスクールが最も多い。

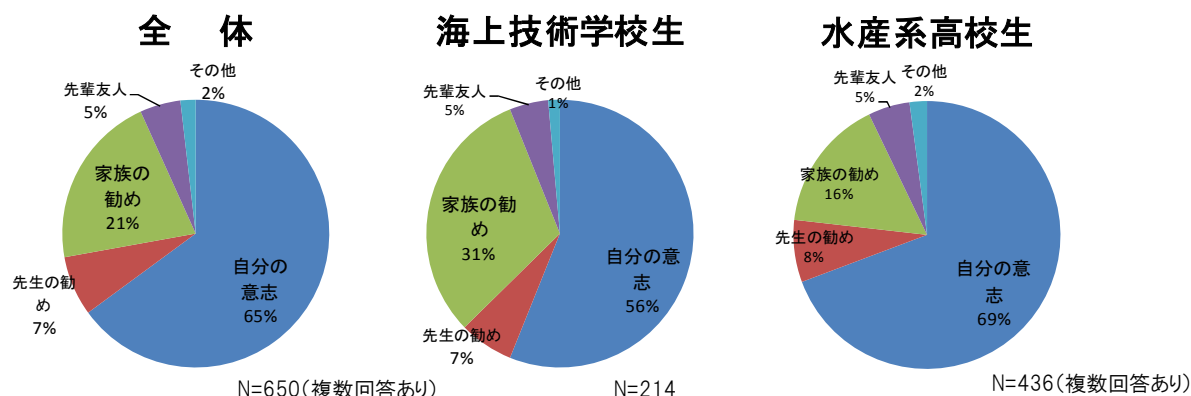
大いに影響と答えた生徒のイベント内容



- 「大いに影響」と答えたイベントの内容では、乗船体験が突出し、オープンスクールでの乗船体験もこれに含まれる。
- 造船所の見学が、2番目に影響を与えているものの、造船を目指す学校が身近にないなどから、本校入学に影響を与えたものと考えられる。

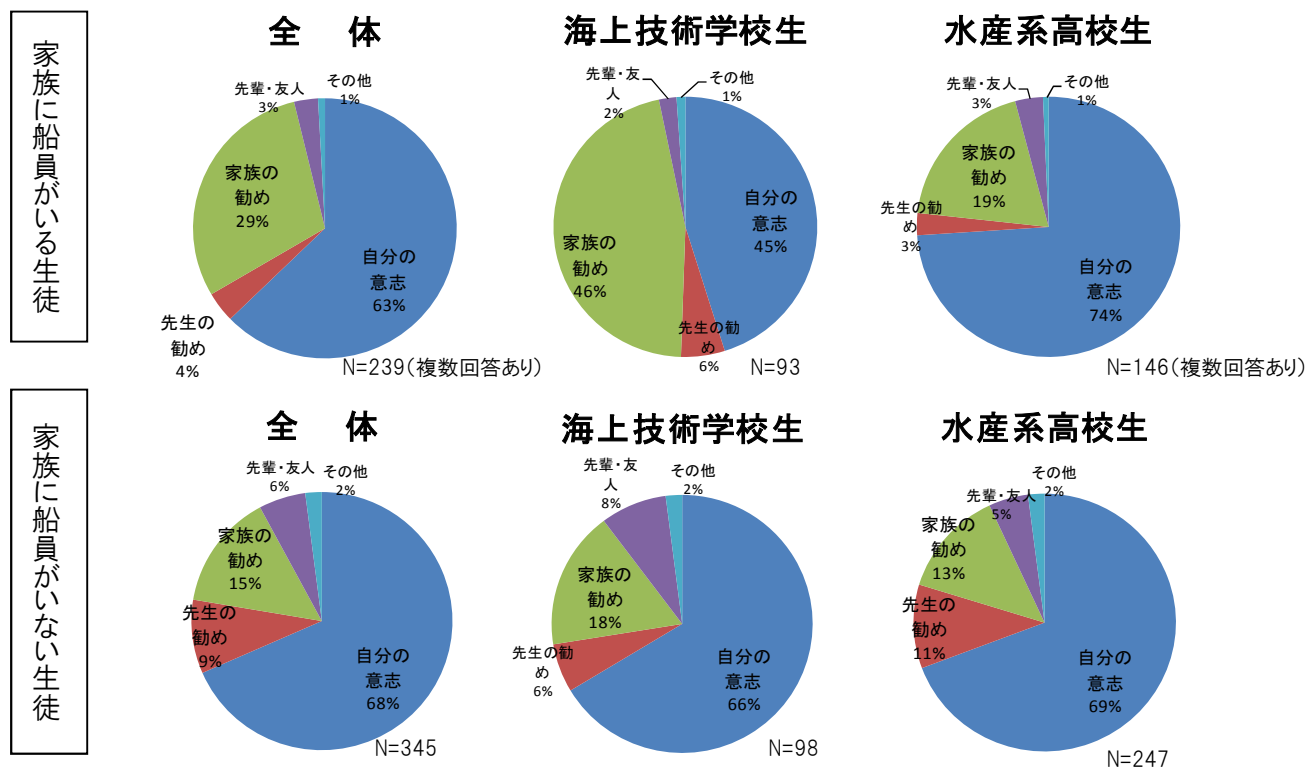
## 4. 本校入学時の意識について

### ①-1 入学の動機(学校別)



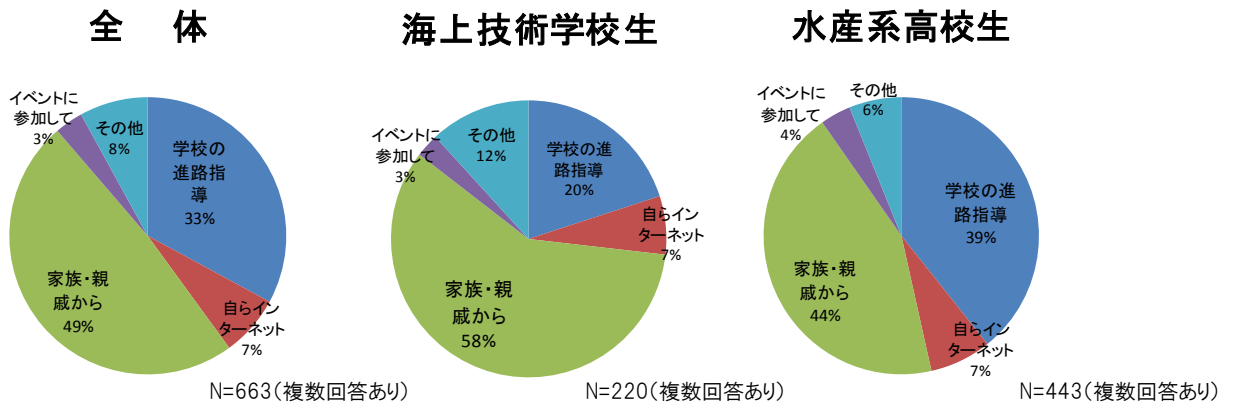
- 半数以上が自分の意志で入学を決定しており、家族の勧め、先生の勧め、先輩友人の勧めと続く。
- 海上技術学校生については、家族の勧めが比較的高い。
- その他の動機としては、「友達がいたから」、「近いし就職率 100%」、「なんとなく」、「行きたいところがあった」等

### ①-2 入学の動機(家族に船員がいる生徒、いない生徒の比較)



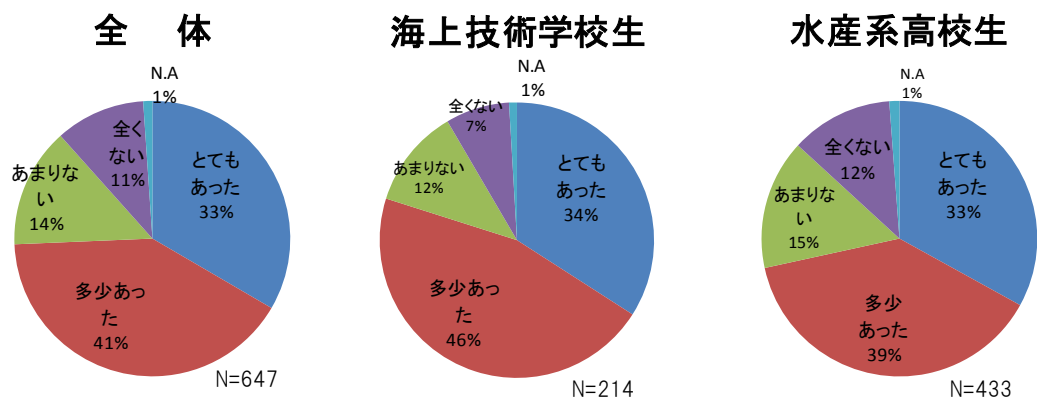
- 家族に船員がいる生徒では、「家族の勧め」の割合が高く、特に海上技術学校生では顕著。
- 家族に船員がいない生徒では、相対的に「先生の勧め」の割合が高く、特に水産系高校生では顕著。

## ② 学校情報の入手先(学校別)



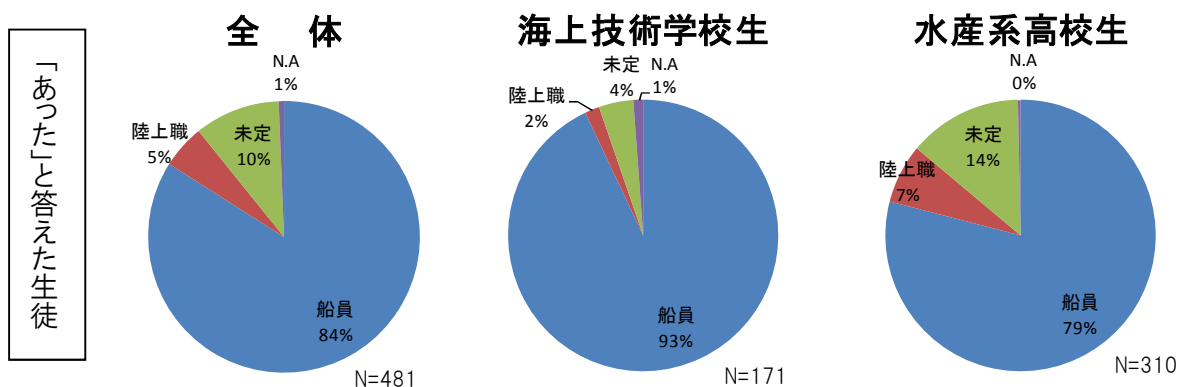
- 全体の半数が、学校情報を家族・親戚から得ており、海上技術学校生において、その割合が高い。
- 全体の1/3が学校の進路指導で得ており、水産系高校生において、その割合が高い。
- その他の内訳は、先輩・友人が21人、テレビ・新聞が6人、ポスター・パンフレットが6人、地元だから5人など。

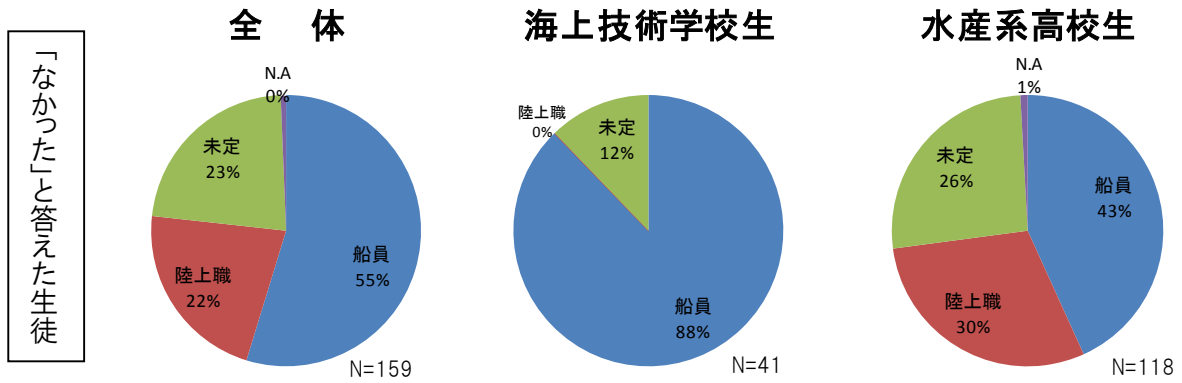
## ③-1 入学時点での船員への魅力・興味の有無(学校別)



- 海上技術学校生において、やや魅力・興味をもつ生徒の割合が高いが、ほぼ似たような傾向。
- 全体の1/4の生徒が、魅力・興味を持たないで入学している。

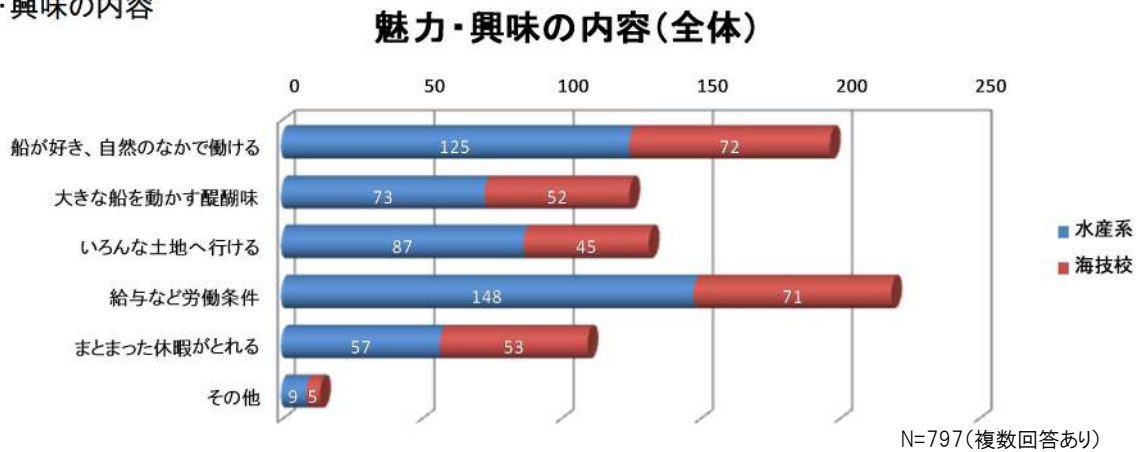
## ③-2 魅力・興味の有無による進路比較(学校別)





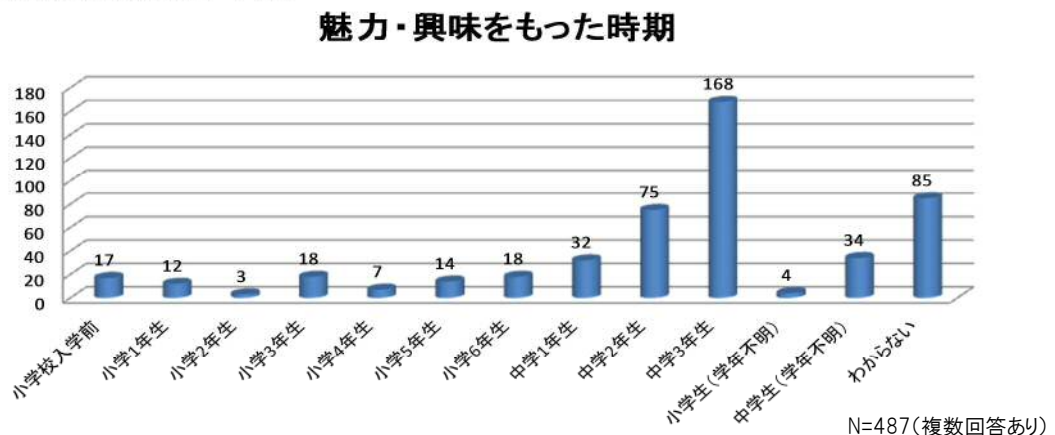
- 入学時点で船員に魅力・興味を持つ生徒の方が、卒業後に船員を希望する割合が高い。
- 魅力・興味を持たなかつた生徒についても、海上技術学校では 88%が船員を希望しているのに対し、水産系高校では 43%と、陸上職希望及び未定の割合が高い。

#### ④ 魅力・興味の内容



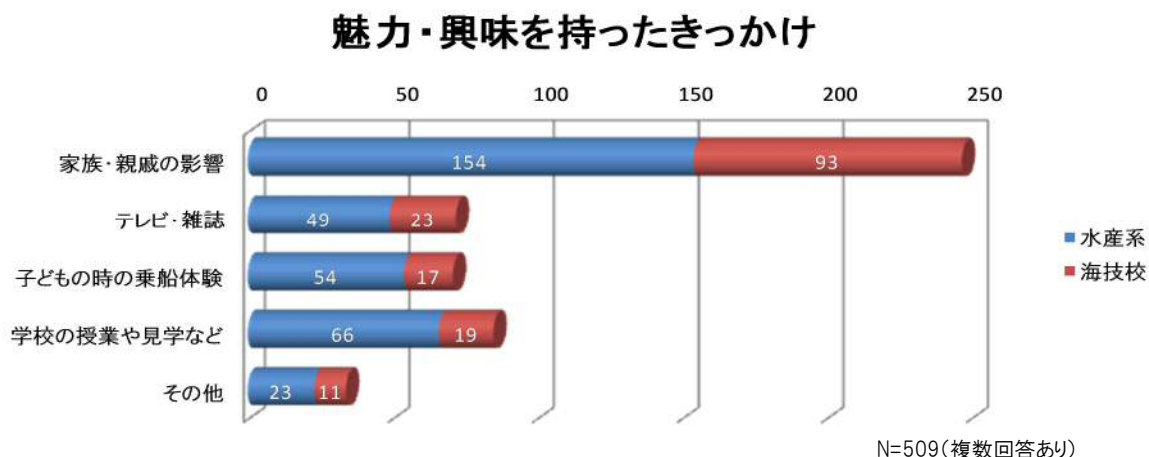
- 水産系高校生では、「給与など労働条件」が一番多いが、海上技術学校生では、「船が好きで、自然の中で働ける」が一番多い。全体でも、この2つが魅力・興味の大きな柱。
- その他の意見としては、「海が好き」7人、「親が漁師」、「漁師になりたい」等

#### ⑤ 魅力・興味をもった時期(学年別)



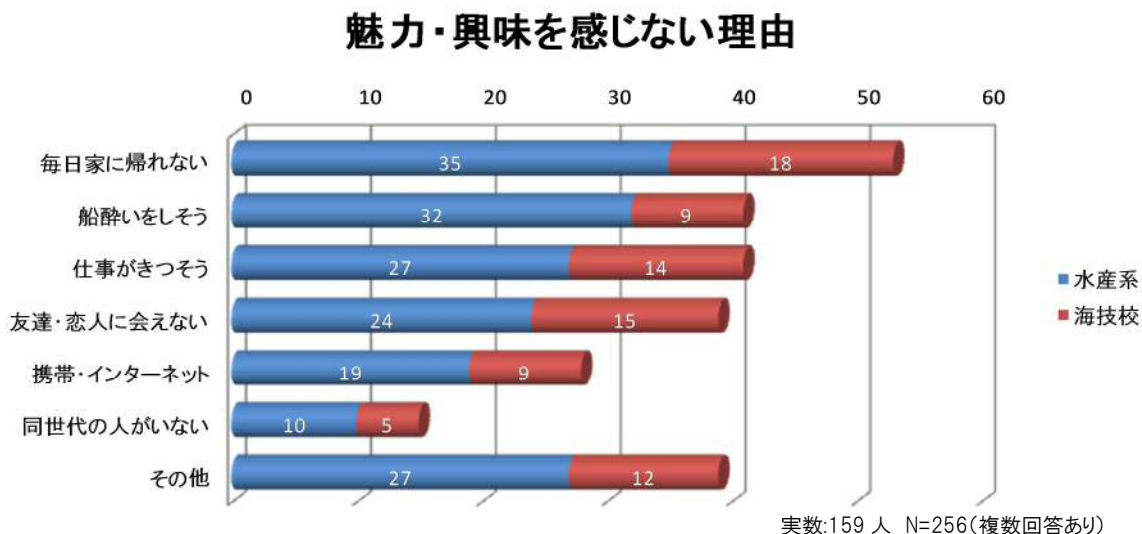
- 3-③「イベント参加時期」と同じく中学3年生が最も高く、中学校入学後からの急上昇は顕著。
- 小学生前、小学生期においては、低水準ながらほぼ横並びで推移。

⑥ 魅力・興味を持ったきっかけ



- 船員に魅力・興味を持つきっかけとして、「家族・親戚の影響」が際立って多い。
- 次に「学校の授業や見学」、「子どもの時の乗船体験」、「テレビ雑誌」と続く。
- その他としては、「先輩や友人知人から話を聞いて」7人、「船が好き」4人等、

⑦ 魅力・興味を感じない生徒の理由(学校別)



- 「毎日家に帰れない」ほか、船員職業に対する基本的情報や知識不足のまま入学している生徒がかなりの数に上がることが判明。
- その他としては、「船員や学校のことを知らなかった」11人、「魅力・興味がなかった」10人、「造船や機械系の仕事をしたかった」3人など。